

北海道開発局
室蘭開発建設部
浦河道路事務所

地震の多発や 危険な越波などの、 防災事業を主体に 地域の安全を 図ります。



北海道開発局 室蘭開発建設部
浦河道路事務所 中村 明治 所長

特色ある国道に、 多岐にわたる災害が発生

浦河道路事務所は、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町の5町を通過する一般国道235号、236号、336号の3路線163.5kmの改築工事を担当しています。また新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町の4町を通過する一般国道235号、236号、336号の3路線130.8kmで、維持、交通安全、雪寒、防災、修繕事業及び管理の業務を行っています。

道央圏と日高地方を結ぶ主要幹線道路である浦河国道こと235号は、沿線に馬産地が多いことからサラブレッドロードと呼ばれ、室蘭市を起点に終点浦河町まで実延長116.0km。同事務所の所管は新ひだか町から浦河町終点までの26.5kmです。

一般公募により236号（野塚国道）は通称名を天馬街道と名付けられ、帯広市を起点に終点浦河町まで実延長139.1km。長さが全道一の野塚トンネル（4,232m）があります。同事務所の所管は野塚トンネル広尾町側坑口から浦河町終点までの40.7kmです。

襟裳国道こと336号は、浦河町を起点に釧路市まで実延長150.0km。えりも町から広尾町にかけて黄金道路と呼ばれる区間があります。同事務所の所管は浦河町から広尾町境界までの63.6kmです。

このように維持管理を行う国道は、海岸沿いや山岳部、牧場が点在する地域など特色もそれぞれです。

防災を主体とする同事務所はあらゆる災害に対応し、それらは暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、津波など多岐にわたります。異常気象時に通行規制を行う箇所が2ヵ所あり、特殊通行規制区間を1ヵ所持っています。平成17年度の全面通行止め回数は降雨により5回、雪崩により2回ありました。



事務所外観

津波予報の発令で、関係機関やコンビニなどに速やかに情報提供

「このエリア独特のものとして、越波があげられると思います。場合によっては石を巻き込み車のフロントガラスを傷付けることもあるので、非常に危険です。低気圧と満潮が重なったら要注意」と話すのは中村明治所長。

国道336号のえりも町庶野～広尾町支庁界においては、台風や冬季風浪による越波が原因の通行止めが年数回行われてきました。2003年（平成15年）9月の十勝沖地震発生後、越波による通行止め回数が急増し、地域住民の生活に大きな影響を与えているのは否めませんでした。そこで越波対策必要箇所7箇所のうち、将来別線ルートになるところの応急対策、及び将来とも現ルートとして残る箇所の恒久対策を平成17年度までに完成させています。様似町～えりも町間の対策として越波予測を行い、CCTVによる波浪の監視なども行っています。

また数字で比較しても地震が多いエリアであることは明らかで、落石の懸念が多い336号は震度3、ほかの路線は震度4でパトロールを行っています。パトロールの結果、異常がある場合や必要時には専門家による点検を実施。地震が発生し津波に関する警報や注意報が発令された場合は、道路情報板で内容を表示したり、関係機関やコンビニなどへファックスなどで情報を連絡。安全を確認しながら並行してパトロールも行います。大規模な津波への対応として道路行政検討用ハザードマップを作成し、活用する作業も平成17、18年にかけて実施しているところです。もちろん構造物の耐震補強も入念に行われています。

住民と協力し合いながら、美しい道路環境作り

道路は安全性や機能に加え、美しさや、自然との共生が求められます。日高山脈襟裳国定公園にあることから、事業は北海道（日高支庁）と打ち合わせながら実施。336号の急崖地は絶滅の恐れがあるハヤブサをはじめとする鳥類の生息地で、平成15年度以降は学識経験者を交えた「急崖斜面鳥類環境保全検討会」を定期的に開催しています。ハヤブサなど鳥類の環境保全に考慮しながら、工事を進めています。

また各地域で、北海道開発局のV.S.P（ボランティア



防災機器室



アサポートプログラム）に参加し、花を植えるなどして道路をきれいにしようという運動が盛んです。

浦河町の「華・花倶楽部」や「堺町本通り商店会」、様似町の「本町2丁目花の会」「様似町商工会女性部」「空き地に花を植える会」「栄町第一自治会」などが、同事務所の管内で活動しています。

「華・花倶楽部」は平成15年6月からV.S.Pに参加し、235号、236号の“潮騒ロード”に花を植え、水やりなどの管理をしています。浦河町の大通りを花でいっぱいにして、街の人たちが楽しく買い物をしたり、歩いてみたくなるような街並みを目指しています。平成18年2月3日に、北のみち普請5周年記念事業で、みち普請活動の団体表彰を受けました。これからもきれいな街並み作りにも、大いに貢献して下さるでしょう」と西永副所長は期待感を込めます。

同事務所は336号宇遠別トンネルの延伸工事を平成18年度に着工するほか、平成19年度以降は目黒トンネル（仮名）を新設。平成19年度までに残り18橋の橋梁の耐震対策など、たくさんの事業を抱えています。従来通り防災に力を注ぎ地域の安全を図るとともに、さらに快適な道路環境の構築を目指しています。